

福建省の結婚式に参列 花嫁が真紅のバケツを担ぐ

二月初旬に教え子の結婚式参列のため八日間福建省を訪問。加のため八日間福建省を訪問。目にしたここ数年の変化は、厦門は歩行者優先になっていきました。新幹線（高速鉄道）は、やや不安でしたが、時速200kを守り、禁煙が徹底（罰金500〜2000元と刑事罰）され快適。しかし、ダブル・ブッキングがあり課題が・・・。



訪問先でたびたび結婚相談があり、若者の大きな課題です。春節で帰郷の際は、親・親戚からのすすめで三〇回もお見合いのすすめです。結婚は本人だけのバケツに水を汲み、担いで運ぶ儀式を見ました。

大気汚染と地下鉄工事など埃のひどさで（喉を悪くする）環境問題でなく、家族を守る重要な問題が深刻です。日本の商品事で「両頭顧」の言葉も知りませんでした。男性はマンションと車の準備が結婚の最低条件で大変です。教え子の結婚式では、主役の二人以外は普段着。花婿の家で行われた儀式と祝賀会には花嫁の両親は参加せず、数日後に花嫁の家で祝賀会を開くこと。完全な嫁入りで花嫁がウエディングドレス姿で、深紅のバケツに水を汲み、担いで運ぶ儀式を見ました。

（堺支部・浅田 勝美）

やはり皮つくりがむつかしい

西支部・水餃子の会が、三月一日吹田市内で二七名が参加し行われました。耳の不自由な方が初参加、手話通訳の方が巧みにリードしていた。だき「皆さんと一緒に出来たのが嬉しいです、次回から是非参加したい」と感想がありました。



和気あいあいと皮つくりから四グループに分かれ、クター」は著者が最も重視する視点です。それは当然、アメリカの覇権の弱体化と中国の台頭という21世紀の基本状況と関わっています。著者は、したがって「中国の脅威」という問題軸をすえて議論を展開し、日本の外交政策の抜本的転換を考察しているのです。

豊下梢彦著『尖閣問題とは何か』を解読

歴史問題「過去の克服を」提起

「歴史・領土問題を掘り下げ、第二回研究会が三月一日十五名の参加で行われました。問題提起・報告者は山本恒人副会長でした。

戦後70年「過去の克服」は日本国民の重要課題

この書は戦後七〇年をトータルに捉え、これからの日本を考えていく優れた材料を提供してくれています。安倍首相は「新談話」構想を固める「21世紀構想懇談会」を足させ、憲法九条の否定に収

ケを領土問題とのかかわりで支払わされようとしている、と指摘しています。

迫られる日本外交政策の抜本的転換

この問題は、「過去の克服」がアメリカの冷戦戦略の「恩恵」と「庇護」のもとで放棄されてきたことと深くかかわ

著者の最大の貢献は「過去の克服」という表現で歴史問題の根本を提起していること。しかも「尖閣の領有権」について、アメリカは七一年以来一貫して「中立的立場」であり、米中関係の構造的変化を反映しているのです。領土問題における「アメリカ・フ

「尖閣問題」については「領土問題の存在」を認め、資源・漁業を含む共同利用の具体的協議を直ちに開始するという現実的解決策を提示しています。以上の報告に対して多方面から活発な議論を行いました。

中国定例研究会第3回テーマ 自衛隊を解剖する

5月24日（日）14時から17時
会場：日中大阪府連文化教室205号室
報告者：河本正道さん
テキストなど詳細は追ってお知らせします。
参加申し込みは府連事務所までご連絡ください。